

Contents

- 1) 学会からのお知らせ
- 2) 健康心理学コラム vol. 79 「子どもの『頭』と『心』」 牧 郁子 (大阪教育大学)

1) 学会からのお知らせ

■日本健康心理学会第32回大会

「一般研究発表」「会員企画シンポジウム」に多数ご応募いただき、誠にありがとうございました。プログラム委員による厳正なる審査の結果を大会HP上でご案内しております。また、HP上で大会プログラム等を随時更新しておりますので、ご確認お願い致します。多くの方々のご参加を、お待ちしております。

【日本健康心理学会第32回大会 ホームページ】

<http://www.jahp32.com/index.html>

2) 健康心理学コラム Vol. 79

「子どもの『頭』と『心』」

牧 郁子 (大阪教育大学)

私は教員養成大学に勤務する傍ら、公立中学校でスクール・カウンセラーをしています。近年多いのが、心因性の身体症状による不登校です。頭痛・吐き気・腹痛・朝起床できない…等子どもの身体症状は多様ですが、共通しているのは、「頭ではどうすべきかわかっているけれど、自分がどうしたいのかわからない」ということです。話を聴いてみると、児童期までに家庭で十分自分の気持ちを汲み取ってもらえていない子どもが多いことに気づきました。先行研究(大河原, 2004)でも、子どもは幼少期からネガティブ感情を抑制して育つと、身体化や行動化(いじめ・非行)につながることを示唆されています。

こうした現状に危機感を持ち、現在、保護者との情動交流が子どもの心の成長に与える影響を研究しています。これまでの研究の結果、保護者にポジティブ情動・ネガティブ情動を話せず、聴いてもらっていない児童は、ストレス事態に遭遇しても行動できる自信が低く、自他への不信感が高まることがわかりました(牧, 印刷中)。またそうした児童は、随伴経験を認知しにくい反面、非随伴経験を認知しやすく、無気力感が高いこともわかりました(牧, 印刷中)。こうした知見をもとに、今後は児童に関わる大人(保護者・教師)が、子どもの気持ちにどう向き合ったらよいかについて研究をしていきたいと考えています。

文献

牧 郁子(印刷中). 保護者との情動交流が小学生の無気力感に与える影響—構造方程式モデルによる分析—教育心理学研究, 67.

大河原美以(2004). 怒りをコントロールできない子の理解と援助 金子書房

メールマガジンの配信停止、アドレス変更は下記アドレスまで日本健康心理学会事務局 <jahp-post@bunken.co.jp> メールマガジンへのご意見・ご感想は下記アドレスまで広報委員会 <jahp-ML@bunken.co.jp> 過去のメールマガジンは、こちらからご覧いただけます <http://jahp.wdc.jp.com/health/health1.html>